

今日の悔恨かいこん

良寛の歌―「ゆくりなく一日一日を送りつつ六十路あまりになりにつらしむ」。ゆくりなくとは「突然に」という意味。良寛はある日突然に老人である自分を発見して驚いた。老いの意識は突然到来するものらしい。

私も昨年夏、身体の故障をきっかけに、もの忘れの進行とあわせて、突然「老い」を意識せねばならなかった。たちまち混乱とろうばいに投げ込まれる。しかし、だれもがやがて老いに向かう陣容を立て直すものである。せめて知的退廃からは免れようと、私は次の三点の実行を自分に約束した。

第一。便りへの返信やお礼状はその日のうちに書こう。私のどの時代よりも、今は筆まめである。

第二。不確かな語句にあうと、その場で辞書で確かめよう。先日、孫が「はたちのエチュード」を口ずさんでいたが、その意味を質問され、辞書で確かめて面目を保った。

第三。仕事に関係する新聞雑誌の記事は、その日に切り抜き整理する。「切り抜き」は五年も続けていると、その道の専門家になれる程の有力な武器である。読書しても、大切な箇所はカードに写しておこう。時たま依頼される講演では、私はテーマ毎に整理された切り抜きとカードを携えて行く。

この三点を今何とか実行しているが、もはや「日暮れて」のうらみは強い。若い時からずっと実行しておれば、友人はさらに多く、知見も豊かで、今とは違った人物になっていたかもしれない。ふり返ってみると、私は何を試みても、すぐ自分の先が見えてくるので、永續きしたためしがない。

成功の秘訣は、「おれは天才だ」とひそかに自分に言い聞かし続けることである。私は若い時からどうしてもそれができなかつた。

(一九八三年四月三十日)